



# TAKEFU

## SSH NEWS

### 『Science Dialogue』

～途上国都市貧困層における食の技術力低下と健康にみる企業フードレジームと食の政治～

福井県立武生高等学校 SSH 研究推進部 2022. 6. 23 NO. 7

6月21日(火)5・6限目に、2年1・2組を対象としてDr. RUIZ TAFOYA, Heriberto(京都大学/東南アジア地域研究研究所)によるScience Dialogueが行われました。メキシコシティ出身で、メキシコのスラムと、フィリピンのスラムにおける食と企業の戦略について研究している方で、大変興味深い内容でした。内容も専門的で、聞きにくい部分もありましたが、何とか概要を理解し、質疑応答を行っていました。

#### 【講演概要】

「フィリピンとメキシコにおけるスラムでの食の共通点はパッケージされている食べ物(例えばカップラーメン、粉末ジュース、缶詰など)がよく消費されている点だ。スラムでは作物を育てる土地もなく、安く、簡単に手に入れる、保存しやすい加工食品なしでは生活できない。しかしその消費行動には企業の戦略があり、良いイメージを消費者に植え付け、自社製品を買うように働きかけている。企業はその国の食文化が廃れるとか、消費者の健康問題を考えているのではなく、自社製品をいかに買ってもらうかを考えているのだ。」



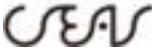
#### 【生徒の感想】

- 今までパッケージ食品は日本やアメリカなどの先進国の人たちの健康に悪い影響を与えているだけで、スラム街や発展途上国にはあまり関係がないと思っていたけど、マニラでパッケージ食品がかなり大きな問題となっていることを知って驚いた。マニラやメキシコシティ以外の都市も知りたくなった。
- 世界の貧困に対する問題を、包装食品から考えるというかなり斬新な方法で研究されていて、貧困に対する関心が深まったのも勿論、問題解決にはたくさんのアプローチ方法があるのだなと感じた。
- 包装された食品についての人々のイメージや、研究の行い方、どれくらい研究したかなどたくさん私達のCEやSEで参考になるところがあったと思った。途中で色々メモを取っていたけれど内容が難しく理解するのが大変だったので、自分が英語でプレゼンするときには、かなり難しいことだが、誰にでも理解してもらえるものになりたいと思った。
- 今まで自分があまり目を向けてこなかった分野の話だったので、知らなかったことばかりで新たな知識がたくさん得られた。これからこのような話題の記事などを目にしたら自分には関係ないと思わず、少し興味を持って見てみたり、自分で考えたりしていきたいと思った。

【当日使用されたスライドの一部】

## Corporate Packaged Food Consumption: Towards a comparative study between Mexico City and Manila

**Heriberto RUIZ TAFOYA.**  
Center for Southeast Asian Studies (CSEAS), Kyoto University

 東南アジア地域研究研究所  
Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University

Takefu High-School,  
Echizen City, Fukui June. 21, 2022  
JSPS Science Promotion

